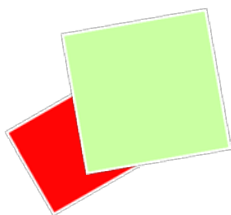


2013 年度
ゼミナール・シラバス

国際社会コミュニケーション学科

2013年度ゼミナール担当者



今井 典子	P. 2
岩佐 和幸	3
岩佐 光広	4
奥村 訓代	5
小澤 萬記	6
上岡 克己	7
古閑 恭子	8
斎藤 昌人	9
佐野 健太郎	10
佐野 由紀子	11
塩原 俊彦	12
周 雲喬	13
関 良子	14
DOYLE, Howard	15
遠山 茂樹	16
中西 三紀	17
中森 健二	18
藤崎 好子	19
持尾 伸二	20
山下 興作	21
吉門 牧雄	22
LINGLEY, Darren	23



今井 典子 ゼミナール

【テーマ】

第二言語習得論を基に英語学習・英語指導法・英語教育を考える。

【授業内容・計画・方法】

上記で挙げたテーマに関する論文(日本語・英語)を読み基本的な内容を学ぶ。

前半は講義形式となるが、後半では参加者に発表をおこなってもらう予定である。また、年間を通して、内容に応じてディスカッションを行う。

【テキスト】

受講生と相談の上、決定する。

【指導可能な領域】

第二言語習得関係と英語教育(日本での小学校外国語活動も含む)関係である。

【参加者への要望】

- ・自ら課題を見つけ、積極的に取り組む姿勢を持っていること。
- ・建設的なディスカッションに向けて努力できること(全員での討議を行うこともあります)。
- ・自分の意見や見解を持ち、また、発表(プレゼン)の際には、レジメやハンドアウト、スライドなどを工夫し、「聞き手」を意識した発表を心がけ、それに向けて取り組めること。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

2・3年生向けに開講しているゼミを試しに受講してもらうこともできます。その場合は、できれば事前に連絡してください。

開講時間帯は火曜3限です。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

月曜日4限

(上記時間帯以外でも、対応する時間があれば対応可能です。)



岩佐 和幸 ゼミナール

【テーマ】

地域からグローバル化を考える

【授業内容・計画・方法】

経済社会の様々な分野で急速に展開する“グローバル化”の問題を、身近なポイントに焦点を当てて、社会科学的なフィールド調査をするのが、本ゼミの課題です。2011年度は回転寿司、2012年度はユズを素材に調査を行いました。今回も参加者の問題関心を踏まえつつ、1つのテーマを決めて調査を実施し、商品／地域という「窓」を通してグローバル化や国際関係の問題にアプローチしたいと思います。そして、独自の調査・分析を基に、調査報告書の執筆・刊行を目指します。

【テキスト】

まずは調査に必要な分析視角を学ぶため、テキストを輪読しています。ジュリエット・ショア『プレニテュードー新しい〈豊かさ〉の経済学』岩波書店、2011年、エリザベス・フィッティング『壊国の契約ーNAFTA 下メキシコの苦悩と抵抗』農文協、2012年、高坂勝『減速して生きるーダウンシフターズ』幻冬舎、2010年などが、現時点での候補です。事前に一度手にとってみてください。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

2011年度卒業生のテーマは、以下のとおりです。

高知県三原村のどぶろくと地域づくり／適正価格／台湾における先住民と放射性廃棄物問題

【参加者への要望】

大学は自学自習が基本ですが、特にゼミは通常の講義とは異質であることを、まず認識してください。皆さん自身が問題意識を持ちながら、ゼミを主体的に創り上げる気持ちで参加して下さい。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

火曜3限に開講しています。楽しくもシビアなゼミ風景を見たい方は、ぜひお越しください。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

木曜3限です。また、上記時間帯以外でも、事前連絡をもらえれば対応します。

【その他】

過去に調査先でのプレゼンや、他大学(滋賀大学、北海学園大学、立命館大学)と発表交流会を行ったことがあります。詳しくはこちらを参照→<http://souls.cc.kochi-u.ac.jp/?&rf=1158>



【テーマ】

「異文化」を伝える技法と作法を身につける

【授業内容・計画・方法】

私の専門は「文化人類学」です。その基本的な作業は、①現地調査(フィールドワーク)を通じて異文化を理解し、②民族誌を書くこと(エスノグラフィー)でその理解を伝えることです。このゼミでは②に力点を置きます。つまり、実際に文章を書くことで、異文化を記述する基礎的な技法と作法を学びます。

ゼミナールⅠ・Ⅱ(2年生)では、隔週を目安に様々なテーマの文章を書き、日本語の文章作成術を確認し、異文化を記述するやり方の基礎を学びます。ゼミナールⅢ・Ⅳ(3年生)では、各自でテーマを決め、異文化の記述を実践します。それを踏まえ、4年生では卒業論文の執筆を目指します。

【テキスト】

参考文献として次のものを挙げておきます：①小田博志(2009)『エスノグラフィー入門：＜現場＞を質的研究する』、春秋社。②佐藤郁哉(2006)『フィールドワーク：書を持って街へ出よう(増訂版)』、新曜社。③本多勝一(1982)『日本語の作文技術』、朝日新聞出版。

【指導可能な領域】

①文化人類学に関する研究全般、②東南アジアの地域研究、③医療・福祉・ケアの人文学・社会科学研究(生命倫理学も含む)が主ですが、「文化」や「社会」を対象に、あるいは切り口にするならば基本的にはどんなテーマでも指導します。まずは相談してみてください。なお、このゼミでの「異文化」とは、外国だけでなく、たとえば自分とは異なる世代の人たち、病気や障害を持つ人たち、牧畜や焼畑を生業とする人たちなどの「自分とは異なる暮らしが営まれる場」を広く指しています。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

木曜5限に開講している2年生対象のゼミナールⅡは受講可能です。事前に相談ください。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

木曜3限。事前に連絡があれば、それ以外の時間でも可能なかぎり対応します。

【その他】

学生の皆さんのあいだでは、「ラオスの先生」というイメージが強いようです。確かにそうなのですが、他にも色々調査・研究しています。詳しくはSOULSの私のページを参照ください。



奥村 訓代 ゼミナール

【テーマ】

今までと異なり、出来るだけ外国人の視点で、日本語・日本文化・日本人を眺める。
1年間の交換留学により、外国語を極めながら、外から日本を眺め視野を広める。

【授業内容・計画・方法】

2・3年時は、交換留学生との共同授業により、討論や共同研究を通し、異文化に触れるだけでなく、自文化を再認識するチャンスを得、同時に留学先を決定する。

【テキスト】

追って指定する

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

卒論例としては、日韓比較、日中比較、伝統衣服関係、日本文化、日本語教育関係と幅広い。
OBは、空港・銀行・教員(国内外の大学日本語教師、高校英語教師)旅行社、進学等

【参加者への要望】

「夢」と「希望」と「やる気」のある人、募集中！

【現在開かれているゼミの模擬受講】

毎週木曜日 4時限(人文5番教室)

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

授業のコマ数により、また前期・後期で異なる。
ランチタイムにパン持参で研究室襲撃すると、在室の可能性は高い。
(メール等による事前アポが、確実！)

【その他】

好きな言葉:「求めよ、さらば与えられん!」「昨日より今日、今日より明日」
有利な職業:日本語教師は、100%の就職率!!



小澤 萬記 ゼミナール

【テーマ】

異文化接触、異文化理解、文化変容

【授業内容・計画・方法】

・それぞれが持っている漠然とした問題意識を具体的なテーマに絞り込み、それを形にすることを目指します。

2、3年生：1学期はテキストを輪読しながらそれぞれのテーマを探します。2学期は個々のテーマにそった調査・報告が中心です。

4年生：原則として個別指導で卒論を作成します。

【テキスト】

佐々木英昭 編 『異文化への視線』名古屋大学出版会 1996（主に3年生で使用）

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

過去の卒論例（それぞれの年度の『卒論選集』に収録されています）

「人と人との間」について(2002)、日本・ウエディングケーキはじめて物語(2005)、日本の消費市場とフランスの飲料水産業とを結ぶ連関メカニズムの考察(2006)、ワイルドの「宿命の女」サロメ(2006)、日本における「からす」のイメージ(2007)、妖怪と幽霊の境界(2007)、緑茶飲料の現在と今後を考える(2011)、特別支援学校寄宿舎の教育的意義(2011)

【参加者への要望】

自分自身のテーマを見つけ、それを文章(ことば)で表現するという作業に真剣に取り組むこと。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

木曜4時限の2年生向けゼミの見学可能。事前にメールで申し出ること。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

月曜2時限目(事前にメールで連絡してくれればそれ以外の時間でも対応)

【その他】

メールアドレス: ozawak@kochi-u.ac.jp



上岡 克己 ゼミナール

【テーマ】

日本の自然保護運動の歴史・日本の自然と文化を扱った本を読む、

【授業内容・計画・方法】

1 学期 日本の自然保護運動の足跡を辿る

2 学期 日本の環境文学を読む

【テキスト】

1 学期 石川徹也『日本の自然保護』(平凡社新書)

2 学期 石牟礼道子『苦海浄土——わが水俣病』(講談社文庫)、
畠山重篤『森は海の恋人』(文春文庫)

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

「レイチェル・カーソンの思想と生涯」「大草原の小さな家」「グリーンツーリズムとエコツーリズム」「日本人の自然観」「ドイツはなぜ環境に優しいのか」「黒人差別の歴史」

指導領域: アメリカ文化全体、日英米の環境文学、異文化理解

【参加者への要望】

熱意があれば、今までの知識等は問いません

【現在開かれているゼミの模擬受講】

金曜日4限、演習室8

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

木曜日2限、その他月、木、金の昼休み

【その他】



古閑 恭子 ゼミナール

【テーマ】

私たちが日々使っていることばとは一体どのようなものなのでしょうか。友人や家族とおしゃべり、ひとり言、考え事をするときにも、私たちはことばを使います。でも、ことばについて考えることはほとんどないのではないのでしょうか。「コクる」や「パニクる」のような若者言葉を、なぜ誰でも活用させることができるのか。韓国語母語話者はなぜ「銀座」を「キンジャ」と発音してしまうのか。ことばを観察し、規則性を見つけ、それを整理すること、これがこのゼミで取り組みたいことのひとつです。

もうひとつは、ことばと社会の関係についてです。世界には 6000 以上のことばがあるとされます。1つの国、地域に複数のことばが話されるケースもあります。そのような社会では、学校やテレビ、出版物で何語を使うのでしょうか。異なることばを用いる人同士は、どのようにコミュニケーションするのでしょうか。以上のようなテーマに、このゼミでは取り組みたいと思います。

【授業内容・計画・方法】

前半は、文献講読とディスカッションを行います。後半は、各自のテーマについて発表を輪番で行います。その過程で、論文執筆に必要な技術を身につけ、内容を発展させ、最終的に卒業論文を完成させることを目指します。

【テキスト】

受講生と相談の上、決めます。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

「在日コリアンの言語生活—残存コリア語語彙を中心に—」

「韓国語を母語とする日本語学習者におけるコード・スイッチング」

「アイヌ文化復興への動き—アイヌ語復興活動を中心に—」

「シングリッシュとシンガポール社会の結びつき—Speak Good English 運動を例にして—」

「外国人児童生徒に対する日本語教育と支援」

「シャドーイングが英語の言語リズムの習得に及ぼす影響—中学2,3年生を対象に—」

【参加者への要望】

普段から、ことばに関する現象や話題に関心を持つこと。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

月曜4限、これ以外も対応可。



【テーマ】

「日常」に関わる身近なことから考える

【授業内容・計画・方法】

例えば、何を着て(「衣」)、何を食べて(「食」)、そしてどのように住むか(「住」)、あるいは誰をどのように愛するか。そのような日常(もしくは非日常)の行為に関する見方や考え方の多くは、ある程度自分たちが生きている時代や社会に規定されています。このゼミでは、とりわけ今の私たちが「普通に」おこなっていることの移り変わりに目を向け、その意味を考えてみます。

1 学期は、とにかく参加者全員で共通の文献を読み進め、その中で各自の興味や関心を引き起こしていきます。2 学期は、各自がテーマを決め、それについて調べていきます。

【テキスト】

衣食住をはじめとした、人々の生活に関するテキストをいくつか取り上げる予定です。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

ここ数年の卒論テーマ(抜粋):

- ・アートと地域活性化
- ・弁当男子
- ・健康観の変遷
- ・結婚式から見る結婚観の変遷
- ・家の間取り
- ・旅行(女子旅)等々

現在の 2・3 年生は、さしあたって「家事」「ジェンダー」「食」「CM」「飾る身体(化粧等)」を自分のテーマにしています。

【参加者への要望】

日々の生活の中で何か気になること、何かひっかかることをテーマにしてください。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

木曜 4 限に開講。興味があれば見に来て下さい。(事前連絡があると助かります。)

【オフィス・アワー(2012 年度 2 学期)】

木曜 12 時～13 時 50 分

【その他】



佐野 健太郎 ゼミナール

【テーマ】

現代世界を取り巻く諸問題

【授業内容・授業計画・授業方法】

本ゼミでは、各年度の授業開始時に、受講生とどのようなテーマ・テキストでゼミを進めるかを話し合ってもらいます。ゼミは合同クラスにはしていません。本ゼミでは、以下のようなテーマでゼミを進める予定です。

- ・ 尖閣諸島や竹島の領有権問題、中東和平の実現可能性
- ・ バブル経済の崩壊と「リーマン・ショック」、小泉改革の功罪
- ・ 馬路村ゆず加工品 30 億円の経済波及効果、中国の景気対策の経済波及効果などです。

【テキスト】

今までに使用したテキストは以下の通りです。

東京大学赤門 **Economist**『東大生が書いたやさしい経済の教科書』インデックス・コミュニケーションズ、2005 年。

神谷秀樹『強欲資本主義 ウォール街の自爆』文春新書、2008 年。

中川昌郎『中国と台湾』中公新書、1998 年。

三土修平「投入産出表の物量体系」(同氏『基礎経済学』日本評論社、1992 年)。

伊藤元重「有効需要と乗数メカニズム」(同氏『入門経済学 第2版』日本評論社、2005 年)。

【指導可能な卒論のテーマ】

フィリピンへの経済援助の経済効果、日本の ODA の評価、J.モウリーニョに学ぶサッカーの戦術、上海の住宅バブル、日中戦争、日本の食料自給率など。

【参加者への要望など】

本音で議論しながら、知的冒険を楽しみましょう。

【オフィス・アワー(2012 年度 2 学期)】

月曜日 6 時間目



佐野 由紀子 ゼミナール

【テーマ】

「日本語」「日本語教育」

【授業内容・計画・方法】

- ・日本語の研究における基本事項、文献の探し方、分析方法などを学ぶ。
- ・日本語・日本語教育に関する先行研究を批判的に読み、議論する。
- ・高知県内における日本語教育事情について学び、調査する。
- ・日本語学習者のための「日本事情」教育について考える。
- ・各自の研究テーマを設定し、調査・研究・報告を行う。

【テキスト】

配布プリント。参考書は適宜紹介します。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

指導可能な領域：日本語、日本語教育に関わること。

過去の卒論例：笑顔は人にどのような影響をもたらすのか／方言に対する意識／女ことばにみる女の力／日本語における「外来語」の存在について／受益表現について／日本語教育における敬語表現について／終助詞について－終助詞「わ」の用法を中心に－／日本語学習者における誤用分析／日本語教科書の分析－ト・バ・タラ・ナラー／ことばの乱れと定着について／挨拶における日本人の言語行動について／会話分析－「なんか」について－／空間的な認知と言語との関わり－「高い」「長い」の使い分け／流行語と若者ことば／「ていうか」の用法とその使用心理

【参加者への要望】

学生の発表およびそれに対する考察が中心になります。積極的に授業に参加してください。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

現在ゼミは開講されていません。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

火曜日3限(メールで事前に連絡してください。その他の時間も相談に応じます)



塩原 俊彦 ゼミナール

【テーマ】

自由

【授業内容・計画・方法】

2 年生前期: 作文・論文指導 同後期: 本の購読

3 年生前後期: 各自による報告

4 年生前後期: 卒論指導

【テキスト】

未定

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

ユニバーサル・デザイン 民間軍事会社 ニュー・パブリック・マネジメント

【参加者への要望】

真摯に学ぶ姿勢

【現在開かれているゼミの模擬受講】

木 3 限 (4 年生による卒論最終報告)

【オフィス・アワー(2012 年度 2 学期)】

木 1 限(事前にメールで日時を問い合わせること)

【その他】

なし



周 雲喬 ゼミナール

【テーマ】

中国文化・言語・社会事情の諸問題を考える

【授業内容・計画・方法】

日中両国の交流の歴史は大昔に遡ることができるが、しかし、時代が替わった今では、日中両国間の理解は充分とは言えず、お互いに相手の国を理解し合う為にはどのようにすべきであろうか。この問題を考えるには、両国間の文化や社会事情の相違等いろいろな課題を認識する必要がある。

このゼミでは、まず日本人は中国文化に対してどのような視点を持っているかという点について日本の作家が描いている中国文化に関する作品を読み、彼らの中国文化への思考を検証してみる。さらに映像資料を通じて、現在の中国の社会や文化の状況にどのような変化が起こっているのか、又日本の文化、風習、社会事情との違いも含め、中国文化・社会、また経済にいたるまでの諸問題に対して考えてみよう。

【テキスト】

最初の授業に指示する

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

中国文化・言語分野

【参加者への要望】

本を読むのが好きな人が参加してくれることを希望します。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

事前に申請して貰った上で受講可能とします。

申請宛先: zhou@kochi-u.ac.jp

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

人文棟 541 室

木曜日 12:00~1:00

【その他】



関 良子 ゼミナール

【テーマ】 <読む>ことの<文化>を考える

【授業内容・計画・方法】

皆さんはこれまで、文章を読むことを、読解する—つまり、書かれた文章を理解する—目的だけで行っていたかもしれません。しかし、読むことは決して受身的な行為ではなく、読者の頭に自然と創意を生み出すことがあります。こうして物語を読むことから始まった文化は、例えば物語の翻案(映画化など)、翻訳、あるいは民話の語り直しといった形で花開くのです。このゼミナールでは、英語で書かれた物語を題材にして、「翻案」、「翻訳」、「語り直し」等をキーワードに、物語を読むことから始まる文化について考えていきます。

2年生、3年生のゼミでは、前期のうちはクラス全体で一つの文献を読み、ディスカッションを通して文献の分析方法や整理方法などを学びます。後期からは、個別に研究テーマを設定し、各自の研究報告・個別指導・研究発表会などを通して、プレゼンテーションの方法や論文の書き方などを学びます。4年生のゼミでは、個別指導、中間発表などを経て、卒業論文の完成を目指します。

【テキスト】

前期のうちは、英語で書かれた文学作品を原典で鑑賞します。昨年度はメアリ・シェリーの『フランケンシュタイン』を、今年度はウィリアム・シェイクスピアの『ハムレット』を取り扱いました。

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

卒業生はまだいませんが、現在の4年生は以下のようなテーマに取り組んでいます。

『フランダーズの犬』研究／アメリカの銃社会／日英比較にみる日本語の特徴／

日欧比較にみる旅行の歴史／明治の女性の幸福観

英語圏文化に関連した領域であれば指導可能です。

【参加者への要望】

英語では、本に書かれた文章のことをテキスト(text)、その書かれ方、言葉づかいやニュアンスのことをテクスチャー(texture)といいます。テクスチャーはまた、布などの肌触りをも意味します。英語の文章を、肌触りまで味わってみたいという学生に積極的に参加して欲しいです。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

木曜4限に開講している2・3年生向けゼミの模擬受講が可能です。できれば事前に連絡ください。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

金曜4限 (これ以外の時間帯でも、対応する時間があれば対応します)



Howard Doyle ゼミナール

Email: hdoyle@kochi-u.ac.jp

Room: 人文学部棟 312

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】(office hours) Wednesdays Lesson 2: 10am-12pm

【テーマ】(Themes)

Main Themes	Other Specialist Themes
Englishes in the World English in Japan Historical Ecology of English	Research and Academic Literacy (for life, career and academic needs & interests) Academic English

【授業内容・計画・方法】(Seminar description, plans, methods/approaches)

Seminars i to ii Students' ENGLISH needs

WHAT ENGLISH they HAVE NOW and what English they WILL NEED & LEARN in the future

PLUS comparing English in Japan and English in the world

Seminars ii to iv

RESEARCHING ENGLISH

Primary research, secondary research, case study, text analysis, ethnography
(How to find out something, how to understand it, how to tell about it)

Seminar v-vi

YOUR OWN RESEARCH relating to *English in the world, English in Japan* or *how communication with English developed in history*. developing, doing, reporting your own primary and/or secondary research project for graduation

***OR** if you want to do something special you can do that and I can help you a lot

In this Seminar, you can learn a lot of **different literacy skills and knowledge** when you **do different kinds of research** as long as you can tell people (me) about it in English

【テキスト】(text): Provided

【過去の卒論例, または指導可能な領域】 (examples of previous thesis titles; areas of supervision)

PAST TOPICS which students have done ARE: *Yoshimoto Kogyo Comedy, Kochi's Area 55, TV Commercials, Sakamoto Ryoma and Internationalism, English Lyrics in Japanese Songs, Katakana, Language Errors, Newspaper Reading Behaviour, the Cultural Significance of Black*

【参加者への要望】(request to students)

If you want to **DECIDE** how to do things by **YOURSELF, LEARN BY DOING** more than from studying, **GET CONFIDENCE & EXPERIENCE**, and **LEARN DIFFERENT WAYS TO FIND OUT THINGS**, then this Seminar may be for you.

BUT, the seminar is **NOT AN ENGLISH LESSON** - we use English, learn about it, and practice it.

【現在開かれているゼミの模擬受講】(trial, observing, applying, etc)

If you are interested, you should come and talk to me (Howard Doyle) – and see some examples of past students' work - before deciding.

【その他】(other)

We are in Japan, but in my Seminar, you should try to use English to communicate, because, in the end, **STUDENTS NEED TO TELL PEOPLE ABOUT THEIR RESEARCH IN ENGLISH.**



遠山 茂樹 ゼミナール

【テーマ】

「情報メディアと社会」

当ゼミでは「情報」「メディア」「ネットワーク」「IT(情報通信技術)」「インターネット」「マルチメディア」「マスコミ」等のキーワードをよりどころに、現代社会と情報メディア(及びメディア技術やメディア構成体)との関係について一緒に考えていきたいと思っています。

【授業内容・計画・方法】

[ゼミナールⅠ(2年次)]

前半で問題解決技法について学び、身近な事象を論理的に把握するスキルを学びます。その後、メディア論や社会学関連の基礎理論について学習していきます。

[ゼミナールⅡ(2年次)]

グループ単位で調査研究を進めます。現地調査を行い、そこで得られた多様なデータを活用して、レポートにまとめます。

【テキスト】

テキストについては受講者と相談のうえ決定したいと思いますが、基本的にはメディア論、情報社会論、マスコミュニケーション論、社会学やその周辺領域の内容を取り上げる予定です。

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

指導可能な領域としては、社会情報論、情報社会論、メディア論、マスコミ論など。

過去の卒論例:「大学生が形成する友人関係と携帯電話の使用方法との関連性について」「高知大学生の交友関係と音楽の聴取、消費行動の関係性について」「インターネット上における著作権侵害対策についての提言」、「現代の女子大学生における流行の服飾の採用動機について」、「報道被害の現状と改善策としての調査報道」等

【参加者への要望】

「自ら考えることが好きな人」「人と建設的な議論をするのが好きな人」「勉強も遊びも一生懸命楽しむ人」「楽しいゼミを創ってほしいという意欲的な人」「私の研究領域であるメディア論、情報社会論、マスコミュニケーション論などに興味のある人」。このような学生の参加を希望します。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

3年生向けに開講しているゼミを試しに受講してもらうこともできます。その場合は、必ず事前に連絡をください。開講時間は木曜日4限です。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

木曜日3限(要予約)。この時間帯以外でも、対応する時間があれば対応します。必ず事前に予約をしてください。

【その他】

希望がある場合、ゼミ合宿を行うこともあります。



中西 三紀 ゼミナール

【テーマ】

「ラテンアメリカの社会と経済」

高校までの勉強においては、歴史であれ政治・経済であれ文化であれ、日本や米国、ヨーロッパ諸国などのいわゆる先進国の事例を主として取り扱ってきたと思います。しかし、そうした先進国発の知識だけでは、世界を正確に、より深く理解することはできません。ましてやグローバル化が進む今日では、先進国以外の国も含む総合的な理解がますます必要とされています。

本ゼミナールではラテンアメリカという、中進国や途上国が入り混じる地域に焦点をあて、当該地域に関する知識を獲得することに取り組み、そこから得られた知見を切り口に、ますます複雑な様相を呈する世界に対するより深い理解を得ることを目的としています。

【授業内容・計画・方法】

◎ゼミナールⅠ・Ⅱ(2年次)

1年間を通じて、まずラテンアメリカに関する基礎的文献をゼミ生全員で輪読します。

◎ゼミナールⅢ・Ⅳ(3年次)

ゼミナールⅠ・Ⅱでの学習をもとに、各自のテーマの絞り込みを行ないます。

また、ゼミナールⅠからⅣを通じて、レポートおよび卒論執筆のために必須の技能となる、学術文献の探し方および読み方、レジュメの作成方法、注の付け方等々を適宜指導します。

◎卒業論文ゼミナールⅤ・Ⅵ(4年次)

各自の卒論テーマを決め、卒論執筆に集中します。

【テキスト】

ゼミ生と相談のうえ決定します。

【過去の卒論例】

「Carnaval de Oruro から読み解くボリビア先住民の社会参加への軌跡」

【参加者への要望】

本ゼミナールでは以下のような学生の参加を希望します。

- ・自らの見識を深め、自分なりの意見や見解を持ちたいと強く願っている人
- ・他人の意見を真摯に受け止め、また議論することができる人

【現在開かれているゼミの模擬受講】

3年生向けに開講しているゼミを試しに受講してもらうことはできます。その場合は、必ず事前に連絡してください。開講時間帯は火曜日4限です。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

木曜日、5限(要予約)

上記時間帯以外でも、対応する時間があれば対応します。



中森 健二 ゼミナール

【テーマ】

中国・日本の文学・文化

日中の文化交流(史)、日中文化のそれぞれの独自性の考察

【授業内容・計画・方法】

受講生と相談の上、中国および日本の文化に関わる書物を選ぶ。その講読を進めるなかで、各自、興味を持ったテーマについて調査・検討し、レジюме作成した上で報告、全員で検討・議論を重ねる。その成果をふまえて論文を作成、提出された論文につきあらためて相互批評をおこなう。

【テキスト】

受講生と相談の上、選ぶ。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】（ここ三年の提出卒論タイトルを挙げます）

「結婚における指輪の意味について」

「白居易文学における女性像」

「夏目漱石の「個人主義思想」について」

「『ウォールデン』に関する一考察—人間的完成を求めて—」

「ロマの現在—統合にむけての課題—」

「FLO にみる今後のフェアトレードの在り方—貧困からの解放」という原点を踏まえて—」

「日本の貧困と非正規雇用」

「死後の名前について」

「日本人の「名づけ」について—「人名」を中心にして—」

「日本社会における男性問題」

【参加者への要望】

未知の世界で、真剣に遊んでみましょう。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

(open class/trial seminar – e.g. seminar II and/or IV, dates, application procedure)

2・3年生対象のゼミ(金曜 4 限)の受講希望があれば、メールにて事前に連絡してください。

(nakamori@kochi-u.ac.jp まで)

【オフィス・アワー】

木曜 12:30～13:30 これ以外でも、空き時間があえば。メールにて連絡してください。(同上)

【その他】

なし



【テーマ】

1. 卒業論文につながるようなテーマの見つけ方
2. 調査研究手法と基本的知識及びスキル
3. 関連分野の先行研究等を読むための英語力

【授業内容・計画・方法】

1. 関心のあるテーマについての視点・論点を考える。
2. 先行研究・資料入手法と分析手法を知る。
3. 自らの考えを口頭および文章で効果的に発表報告する。
4. 発表報告の評価とフィードバックについて学ぶ。
5. 英語力強化のための時間を設ける。

【テキスト】

特になし(随時プリント配布)

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

<過去の卒論例>

- ・アジア諸国における小学校英語教育
- ・言語としての手話に関する研究:ろう教育での活用と社会的認知に向けて
- ・労働における男女間格差の実情と企業のポジティブ・アクション:男女間格差是正に向けて
- ・アメリカ合衆国における言語政策と英語公用語化運動
- ・日本の ODA におけるジェンダー主流化政策の現状
- ・音節境界に渡る子音連続における母音挿入の考察」
- ・ロシア語における語彙文法の通次的研究
- ・日本人学習者に対する英語発音教育について

【参加者への要望】

【現在開かれているゼミの模擬受講】

【オフィス・アワー(2012 年度 2 学期)】

火曜日4時限

【その他】



持尾 伸二 ゼミナール

【テーマ】

「読んで、考えて、書く」力を身につける

【授業内容・計画・方法】

最初の一年間は、自分の興味のある対象についての様々な文献を読んでまとめ、それを授業で発表してもらいます。3回生の終わりまでに、その中から最終的に卒論のテーマを決めて、4回生からは卒論作成にとりかかることになります。

【テキスト】

特にありません。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

「日独のまちづくりの比較と地方都市の取り組み」「日本の物語に登場する橋についての考察」
「映画に描かれたアイルランド史」「昔話の中の動物たち」「幸せとは何か-アメリカの家族映画から考える-」「『女大学』から読み解く山本周五郎の『日本婦道記』」「醤油の文化史」

【参加者への要望】

貪欲な好奇心を持って、できるだけたくさんの本を読んでください。そしてその中から卒論のテーマをぜひ見つけてください。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

火曜日・金曜日 12:30~13:00



山下 興作 ゼミナール

【テーマ】

- ・声は文字より想いを伝える
- ・動き出せる身体を作ろう
- ・「すり合わせる」力を身につけよう

【授業内容・計画・方法】

立ち方、歩き方から始め、発声、声の伝え方、視線の取り方等を、いくつかのゲームやアクティビティを通じて学んでいきます。併せて、芝居の1場面を使って、言葉のやり取りをし、学んだことの定着と個々の弱点の克服をはかります。その後、いろいろな役を経験しながら、一本の芝居を通して作り上げていき、その過程を通じて「互いの想いをすり合わせる」とはどういうことを体験します。

【テキスト】

いま使っている台本は、『新幕末純情伝』(つかこうへい)です。

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

大衆文化に関わるもの。ちなみに昨年度は下の通りです
「マンガからみる有縁社会の変容」「日本酒—その特徴と市場動向について」「“認められたい”という願望—左手薬指に指輪をつけたがる若者」「音楽シミュレーションゲームの魅力」「『草食男子』とはなにか」

【参加者への要望】

上手・下手は関係ありません。どうすれば自分の言葉が相手に届くのだろうか。どうすれば人の言葉をしっかり受け止められるのだろうか。そんなことに興味があれば、それだけで十分です。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

いつでも歓迎します。金曜5限、210番教室です。少々汚れてもいい恰好でください。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

木曜2限 研究室(人文棟433室)にて。その他、研究室にいるときは大抵対応可です。

【その他】

ゼミ生の声をいくつかあげておきます。

- ・大きな声を出して、日頃のストレスも解消！
- ・絶対他のゼミでは経験できない内容。ひょっとしたら一生で今だけしかできない経験かも。
- ・友達から「変わったゼミ」だねと、よく言われます。
- ・ジャージで出席しましょう。汗かきますよ。体からも心からも。
- ・バイト先での接客が積極的になりました。
- ・いろんな意味で「おいしい」ゼミです。
- ・みんなで話し合いながら場面を作っていくのが、とっても楽しいです。



【テーマ】

このゼミナールでは、日本文化をより深く、またより広く理解するために、外国人の視点から見た場合、日本文化がどのように評価されているのかを探っていきます。同時に、英語で書かれた日本文化論を読むことによって、日本文化を世界に発信していくために必要な英語力の涵養を目指します。さらに、卒業論文の執筆に備えて、研究テーマの選び方、資料の探し方、論文の書き方などを丁寧に説明します。

【授業内容・計画・方法】

1学期は小泉八雲『日本の心』の中から、「戦後に」「停車場にて」「ある保守主義者」「虫の演奏家」などを英文と日本語訳で読み、八雲が初めて体験した日本の印象、また、彼が知った日本人の心情をどのように英語で伝えたかを学びつつ、日本文化を英語で紹介することの意義を探りたいと思います。

2学期は佐伯彰一・芳賀徹編『外国人による日本論の名著』に紹介されている書籍の中から自分の興味のある本を選び、その詳細な内容とそれに対する各自の批評とを発表してもらいます。外国人の目から見た場合、日本がどのように捉えられているかを知るとともに、彼らの見解を鵜呑みにするのではなく、その問題点を指摘しつつ批判的に評価する訓練をします。ただし、2012年度の授業で扱った文献は対象から外します。

【テキスト】

小泉八雲『日本の心』、講談社学術文庫。

佐伯彰一・芳賀徹編『外国人による日本論の名著』、中央公論新社。

その他、参考資料などについては授業の中で適宜紹介します。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

イギリス言語文化(詩、小説など)、日本文化表現法、小泉八雲、茶道、武士道、中東問題などについての卒論指導ができます。遠慮なく相談してください。

【参加者への要望】

授業への積極的な参加と十分な予習を期待します。また、いろいろな事柄に対して問題意識を持ってほしいと思います。そのような問題意識と探究心の中から、将来の卒業論文のテーマを発見してほしいと思います。

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】

月曜日4時限・吉門研究室(人文学部棟3階316)



Darren Lingley ゼミナール

【テーマ】(theme) Intercultural Communication, Comparative Culture, ELT

【授業内容・計画・方法】(seminar description, plans, methods/approaches)

Seminar I: General themes related to IC and comparative culture.

Seminar II: Emphasis on authentic listening materials: features of spoken language.

Seminar III: Students will present on themes of interest and lead seminars by reporting on a literature review

Seminar IV: Reporting research: academic writing. Assigned writing projects.

Seminar V/VI: Preparation of thesis (method, data collection, process writing)

【テキスト】(text)

Students will maintain a file of selected readings, assignments and items related to individual research aims.

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

2010 (Child Adoption in Japan)

2009 (A Study of African American Vernacular Based on Authentic Spoken Texts)

【参加者への要望】(request to students)

Students should have an interest in the course themes, and motivation/ability to study in English. Prior consultation with instructor is strongly recommended.

【現在開かれているゼミの模擬受講】(trial, observing, applying, etc)

(open class/trial seminar – e.g. seminar II and/or IV, dates, application procedure)

First-year students are free to attend Seminar II (Thursday, 3rd period, Room 1, 5F) on December 13th.

【オフィス・アワー(2012年度2学期)】(office hours): Monday 4th period (2:40-4:20)

【その他】(others)

A sub-theme of each of my Seminar courses is improvement of language ability in each of the major skills. The focus will alternate between language improvement and concentration on content. All course instruction will be in English.

